

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
希少がん診療・相談支援におけるネットワーク構築に資する研究
（分担研究報告書）

「がんゲノム医療中核拠点病院との連携」

研究分担者 大熊 裕介 国立がん研究センターがんゲノム情報管理センター情報管理室 副室長

研究要旨

本分担研究では希少がんにおけるCGPの利用実態の把握と促進を目指す目的で、がんゲノム中核・拠点・連携病院からのアンケートを通じ、その実態を把握・問題解決を目指した。令和5年2月16日までに68,149例が累計で登録されている。

また、現在、診療医とC-CATレポジトリを直接つなぐC-CATポータルをセキュアなネットワーク環境で運用することができおり、こういったインターフェスを様々なネットワークと連携に利用することが可能か検討していきたい。

A. 研究目的

本研究は、専門的医療を提供可能な施設に限られる希少がんに関して、全国の希少がん患者が適切な医療へつなぐことができるよう、ネットワークを整備し、希少がん患者が住み慣れた地域で相談支援を受け、適正な希少がん診療を受けられる体制を構築するための研究を行う『希少がんの情報提供・相談支援ネットワークの形成に関する研究』において、がんゲノム医療中核・拠点・連携病院といった、現在の診療ネットワークとして既に構築されているがんゲノム診療との連携のため、希少がん診療における他の基盤との横展開のため、希少がん診療におけるがんゲノムプロファイル検査の実態調査や利用率の向上により、希少がん患者が適正な診療を受けられる体制を構築する。

本研究での位置づけとしては、希少がん全国ネットワークを、がんゲノム医療中核拠点病院等においてどのように位置づけるか、また、本研究を希少がん患者・家族のニーズに合致したものとするための検討、助言を行うことを目的とした。

B. 研究方法

希少がんネットワークとがんゲノム医療機関との適切な連携方法について班内で検討するとともに、がんゲノム診療ネットワーク内に対して、希少がんに対するがんゲノム医療の現状における利用実態および利用の向上などをアンケートなど通じ、実施していく。

（倫理面への配慮）

今年度～来年度にかけ、がんゲノムを実施している医療機関に対するアンケート調査を予定しており、倫理審査などは不要と考える。

C. 研究結果

令和5年度は、2回のアドバイザーメカニズム小班会議への出席及び発表を行った。
このなかで、今後、診療的な課題に応じて病院長

連絡会議に提言を行う、ワーキンググループで検討・承認を受け、各医療機関へのアンケートをがんゲノム医療病院（中核・拠点・連携）に対し、希少がん診療へのがんゲノム医療の提供体制や課題についてのアンケート実施を検討する。

D. 考察

がんゲノム医療は2019年6月に保険診療において実装されているものの5年経過してのがんゲノム医療のあり方や診療的な位置づけの変化と継続的な討議により、臨床的なニーズや医療現場における問題発見と課題解決が医療機関－C-CAT－厚生労働省を含め、継続的に行われてきた。問題が多々あるとはいえ、250を超える医療機関の連携において多くの医療機関との連携は希少がんネットワークが拡大していくに際して問題意識を共有することができると考えられた。

また、現在、がんゲノム医療ではそのネットワークの情報管理センターとしてのがんゲノムパネル検査の登録と、がんゲノムの元データと診療情報をC-CATレポジトリへの登録が保険診療の要件として実施されている。このため、センターと各医療機関担当医をつなぐインターフェスが実装されており、医療機関のみのネットワークだけでなく、担当医師個人がネットワークにアクセスできるようになっており、実際に診療利活用と臨床試験データベースへのアクセスがプル型の情報としてアクセスすることができる。

将来、希少がんセンターと臨床医個人とをつなぐためのインターフェスの実装の検討が構想として考えうるが、一方で制度として落とし込めるかが課題と考えられた。

E. 結論

次年度に向け、希少がん領域における保険診療によるがんゲノムパネル検査を実施するにあたり、具体的な診療的課題とアンケート内容を次年度に向け、検討していく。

F. 健康危険情報
特になし

G. 研究発表
1. 論文発表
特になし

2. 学会発表
特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む)

1. 特許取得
特になし

2. 実用新案登録
特になし

3. その他
特になし